

平和が丘防災タイムズ 第33号

平和が丘学区防災委員会

早いものでもう師走ですね。何かと慌ただしい時期ですが、こんな時期こそ心にゆとりを持ち、防災対策も万全に、ご家族無事に新年を迎えましょう。さて、防災タイムズ第33号では、9月に行われました防災あんしん調査結果について、ご紹介させていただきます。

○第14次 防災あんしん調査票 集約結果

10月に第14次防災あんしん調査票の集約を完了し、結果につきましては各自治会を通して回覧で報告させていただきました。ご協力いただきました自治会や住民の方に御礼申し上げます。

今回の調査票の回収率は84.1%と、過去最高の86.7%(H26)に比べ2.6ポイントも低下しており、災害時の共助のためにも、より多くの回収が望まれます。

なお、防災あんしん調査票は平和が丘学区独自の取り組みですが、H23年の東日本大震災以降、行政や他の学区等からも特に注目されています。

(1) 回収結果

	配布世帯数	報告世帯数	調査票回収率	総人数 (報告人数合計)	一世帯あたり 平均人数	75歳以上 世帯数	要援護者 人数
H28年度	1,945世帯	1,662世帯	85.4%	4,324人	2.60人	445世帯(26.8%)	106人(6.4%)
H29年度	1,911世帯	1,608世帯	84.1%	4,150人	2.58人	461世帯(28.7%)	134人(8.3%)※2

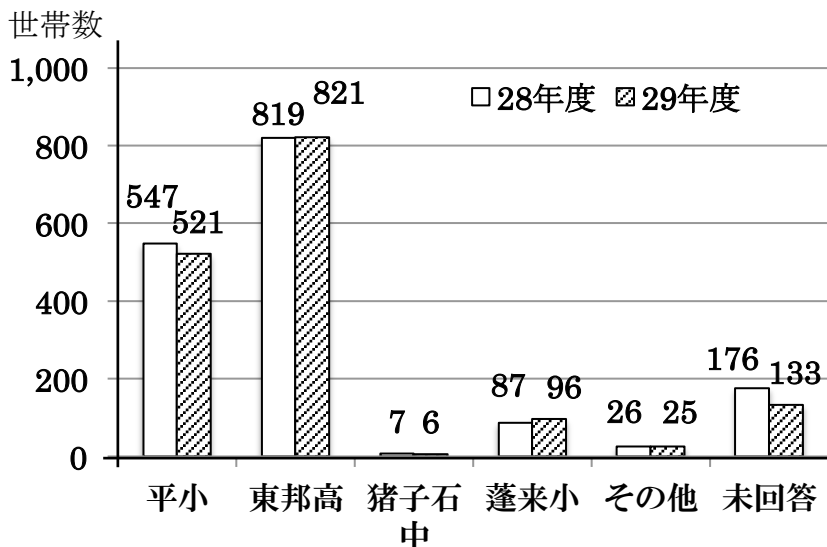
※調査票の配布ができない管理マンション等があるため、配布世帯数および総人数等は学区全体の
正値より少なくなっています。 (※2：要援護者人数／報告世帯数)

75歳以上の高齢者がおられる世帯は学区全体で28.7%と、H28年度26.8%に対し1.9ポイント増加しており、高齢化が益々進展していることが伺われます。(H27年度25.3%)

なお、自治会ごとでは、最高で47.4%を占める自治会もありました。(最小20.6%)

また、134人の方が災害時に何らかの援護(介助)が必要であり、自主防災会やご近所同士での助け合いが重要になります。日頃から顔の見えるお付き合いをお願いします。

(2) 避難所への避難世帯数



○8割以上の方が、平和が丘小学校または東邦高校を避難先とされており、依然避難先のバランス化が課題となっています。

○また、報告のあった世帯のうち約1割(133世帯)の方が、避難先を未回答とされており、今後も避難先のさらなる周知啓蒙が必要と思われます。

○なお、蓬来小学校は、平和が丘学区の防災委員等係員は出向きませんので、ご注意ください。

※コミセンは要援護者用の避難所として活用することになっています。

○「自分の命は自分で守る」（平和が丘小学校）

平素よりお世話になっております平和が丘小学校から、児童に対する防災教育について寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。

「自分の命は自分で守る」

名古屋市立平和が丘小学校

「おはしも」。これは避難するときの、本校の児童の合い言葉です。

避難訓練時には、おさない、はしらない、しゃべらない、もどらないということ意識して取り組むようにしています。

本校では、避難訓練を年間4回実施しています。

4月には、地震発生後に火災が発生した場合を想定し、避難経路を確認し、安全に避難する態度を学びます。

9月には、東海地震注意情報が発表された場合を想定し、保護者の方に児童のお迎えに学校に来ていただき、安全に引き渡す訓練をする機会をもちます。

10月には、休み時間に地震が発生した場合を想定して行います。校内の様々な場所にいる児童が、近くの教員や放送の指示を聞きながら、自分自身で判断して避難をする機会をもちます。

1月には、地震が発生した場合についての訓練を、予告をせずに行い、放送の指示に従ってあわてずに速やかに避難できる態度を養います。

これらの避難訓練の中で、地震発生の想定の際には、「緊急地震速報」を流します。児童は、「緊急地震速報」を聞いたら、机の下に入ったり、物が落ちてこない・倒れてこない・移動してこない場所へ移動したりするなど、自分の命を守るための行動をする訓練を重ねています。

また、児童は「なごやっ子 防災ノート」を持っています。避難訓練前の学習や日頃の防災についての確認などを行い、防災の意識を高めています。

実際の災害の発生に備えて、児童が自分の命を守る行動ができるよう、これからも指導していきます。

□防災お役立ち情報（Jアラート：全国瞬時警報システムとは）

弾道ミサイル情報、緊急地震速報、津波警報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を国（内閣官房・気象庁から消防庁を経由）から送信し、市町村防災行政無線のスピーカーやケーブルテレビ、コミュニティFM、登録制メール等で緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。携帯電話やスマートフォンでも「緊急速報メール」や「エリアメール」と呼ばれるサービスにより専用警告音とメッセージで伝達しますが、一部の格安スマホでは受信できないものもあるようです。その場合は「Yahoo!防災速報アプリ」を入れて地域等の設定を行えば受信できるようです。（スマートフォンアプリ等による国民保護情報の配信サービスの活用（平成29年5月11日消防庁）より引用）



<編集後記> 平和が丘学区では今年4件の火災が発生しました。新築住宅への住宅用火災警報器設置が義務づけられてから10年が過ぎ、電池もそろそろ寿命になる頃です。火災は起こしたくないですが、もしものために早めに取り替えて、安心して新年を迎えましょう（前島）



平和が丘だより

検索